

高津川水系上流域川づくり検討委員会 議事要旨

【日 時】 平成26年2月6日（木） 13:00～15:00

【場 所】 島根県益田合同庁舎 5階 大会議室

【出席者】 別紙出席者名簿のとおり

【傍聴者】 なし

【内 容】

■議事

- (1) 高津川水系上流域河川整備計画の変更と今後の策定スケジュール
- (2) 津和野川および名賀川の整備

■質疑応答

- ・ 津和野町の地元から川の中に河原を作ってもらいたいという意見を聞いており、また川へ降りる箇所がないため、川へ降りることが出来るようにしてもらいたい。
→ 今後、詳細設計を行う中で、説明会を行い、地元の意見を聞きながら設計を進めていく。
- ・ 名賀川は、津和野川流域で唯一天然のヤマメがいる川であることから、瀬や淵を作るだけでなく、産卵場の整備もお願いしたい。また、落差工は魚にとっては障害であるため、魚道がなくても遡上できるような堰を検討してもらいたい。設計を進めるにあたっては、専門家も交えて設計を進めてもらいたい。
→ 県も被災後から川づくりアドバイザーに意見をもらいながら検討を進めていることから、今後もアドバイザーなどの専門家や漁協の意見を聞きながら検討していきたい。
- ・ 魚は、支流へも入っていくため、小河川との合流部についても魚が入れるような検討を行ってもらいたい。
→ 支流との合流点についても河川縦断等を考えながら検討を進めていく。
- ・ 河川内の寄せ石は、元々川にあった石を使うようにしてもらいたい。また、ホタルや魚にやさしい流れになるような川づくりをお願いしたい。
→ 今後の詳細設計等でホタルや魚に配慮した流れとなるような検討を行う。
- ・ 今回の洪水において土砂と流木がどのくらいの比率で流出したのかは不明であるが、植木の枝打ちや間伐時の仮置き材木が河川内に流れ出たことが被害の原因ではないのか。
→ 仮置きした材木も流れ出たものがあるかもしれないが、被災原因はそれだけ

ではない。

- ・ 農業用水の井堰について地元との調整はうまくいっているのか。
→ 井堰は 10 基あるが、被災して農地に水がとれていない堰も中にはある。現在、地元と調整が出来ているわけではないが、水利権者の意見を聞きながら、堰の位置や高さなど検討する。

- ・ 今回の助成事業と農地災害との関連は、どうなっているのか。
→ 農地も被災しているため、災害査定を受けている箇所があることから、今後、津和野町と調整を行い、事業を進めることとなる。

- ・ 津和野町は歴史のある町であることから、ボーリング調査を行った際、コアの地質を顕微鏡で解析することにより、過去の土地形成の成り立ちなど把握できるため、希望として調査をお願いしたい。
→ 橋梁などボーリング調査を実施する箇所については、解析を実施する。

- ・ 堰の可動、固定については地元とどのような調整状況となっているのか。
→ 測量設計が発注できていないため、調整できていないが、今後行う詳細設計の中で検討する。また、一般的な堰の考え方として、名賀川のように河川縦断勾配がきついものについては、固定堰、津和野川のように河川縦断勾配が緩くても堤防高が高い川については、可動堰を考えるのが一般的である。

以上